



▲絵本の読み聞かせでは、子どもたちがいつも真剣に耳を傾けている

絵本の魅力を 子どもたちに伝えたい

竹野地域では、10月27日、総合支所3階に待望の図書館がオープンします。この図書館で絵本の読み聞かせができる日を心待ちにしているグループのリーダーを紹介します。

大濱 睦子さん（70歳）竹野町竹野在住



▲長年、竹野町で幼稚園教諭として務めた大濱さん。生け花教室の師範を務める傍ら、絵本の読み聞かせ、コーラスなど、いろんな分野で活躍している

地域に貢献しよう 始めた読み聞かせ

竹野地域には、子どもたちを対象にして絵本の読み聞かせや人形劇、紙芝居などを行っているグループ「おはなしのへや」があります。

代表の大濱睦子さんは、「地域に貢献できる活動をしたくて、平成元年に会を立ち上げましたが、当初は人集めが大変でした」と振り返ります。

発足当時のメンバーの河原由紀子さんも「忙しい主婦業の傍らでも、活動に賛同してもらえる人を探すことがとても大変でした」と勧誘活動を根気強く続けた当時を懐かしみます。

絵本の読み聞かせに耳を 傾ける子どもの顔が好き

大濱さんや河原さんなどの努力によって現在会員数は10人。主婦を中心にメンバーそれぞれが自分自身の技術を上させようと、積極的に読み聞かせ研修や読書講習会などに参加し、技術や知識の向上に努めています。

大濱さんは、「絵本の読み聞かせは私にとって心の安らぎです。子どもたちが真剣に耳を傾ける姿を見ることが好きなんです」。一方、途中に入会した小高桂子さんは、「最初は興味本位で入会しましたが、今は生きがいの一つになっています。自分の伝えたいことが相手にうまく伝えら

小学校に読み聞かせの 出前をしよう!

「おはなしのへや」では、竹野小学校と中竹野小学校に週1回、竹野南小学校には週2回、絵本の読み聞かせに出向いています。この活動を担当するのは、おはなしのへやメンバーとPTA、そして地域の皆さんで構成する「ゆうちゃんのあいかばん」というグループです。

この取組みは、「小学校に読み聞かせの出前をしよう」という会員の発案を受けて、平成14年に始まりました。子どもたちは、読み聞かせをとっても楽しみにしています。学校や保護者も、読み聞かせを通して、子どもたちが人の話を聞けるようになり、何事においても集中力が向上すればと期待しています。

待望の図書館が完成 希望と期待で胸いっぱい

同グループは、まもなく大きな転機を迎えようとしています。

それは、10月27日の市立図書館竹野分館のオープンです。これまで、竹野公民館を拠点に活動を行っていましたが、11月からは設備の行き届いた同分館で月に1回、絵本の読み聞かせをすることにしました。また、開館日の記念行事では、おはなし玉手箱と題し、大型紙芝居やストーリーテリングを披露する予定です。

大濱さんは、「待望の図書館が完成し、いっぱい絵本が紹介できる日を会員一同心待ちにしています。ぜひ、子どもたちには手づくりの温もりを感じて、楽しいひとときを過ごしてほしいです。そして私たちは、自らも常に勉強する気持ちを忘れずにこれからも活動を続けていきたいです」と、新たな舞台での抱負を、目を輝かせて話していました。



▲冬のクリスマス会で人形劇を披露するメンバー